

# 引き出し式仮設浴室

## A drawer-type temporary bathroom

AD 40 藤原 雄嗣  
指導教員 比留間 真

### 1. 研究目的

日本は世界でも有数の地震国である。その為地震災害時における対策は衣食住から電気、水道電話等のライフラインの切断にまで対応している。特に自衛隊はライフラインの分野では需品科装備で衣食住から衛生面で大きく貢献していると言える。先の阪神大震災を参考として作られ新潟中越沖地震で活躍した野外入浴セットをインテリアという観点からデザインの面でアプローチをかけていくのが研究目的である。

### 2. 調査と分析

野外入浴セットは立川にある陸上自衛隊の広報基地で本物の物を見てきた。本体は牽引式になっており、被災地まではトラックで牽引される。中にはフレームに外装幕、10000L貯水タンクに、ボイラーやポンプ、発電機、入浴機材一式と棚などの機材を積載し被災地へと運ぶようになっていく。展開は一基あたり四人で30分。運営にさいしてもボイラーやポンプの操作に人数を裂く。

自分がこの野外入浴セットを目にして感じた問題点は、設営に時間と人がかかり過ぎていると見える点と身体を晒す空間で浴槽などを構成するための金属フレームが剥き出しになっている点の二つであると自分は考えた。

### 3. コンセプトの立案

「直ぐ簡単に使える」

現在使用される野外入浴セットよりも直ぐに設営できる簡単な構造するのが目的である。

「安全快適な浴室」

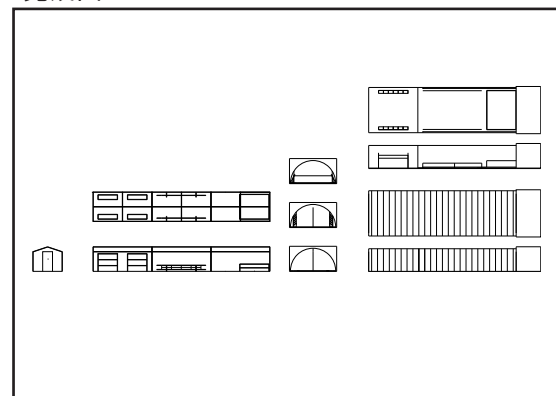
テントや浴槽のフレームやパイプ等の配置による身体と安心感の追求するのが目的である。

### 4. デザイン展開

最初に設営時間を短縮するためのデザイン展開として、初期段階で四角い蛇腹状のフレーム一体型の検証をした。結露になどに対していい効果があったが雨などの際に凹凸面に雨水が溜まるという欠陥が見つかった。この欠点からフレームを四角から半円状にする事により、雨水を下に逃す案を展開、しかしフレームの強度に問題があり蛇腹状のフレームから、フレームを交差させ引き出す

様に展開する方式に転換した。配水等のパイプは化粧台の裏に覆い隠す様に配置する事で美観を持たせる物を考案した。また設置する棚や化粧台をスチールパイプから布の物にする案を展開、この布の棚の利点として持ち運びや移動の際にかさ張らず、金属スチールラックの棚の様に組み立てる必要のない利点がある。浴槽は身体を考慮し、金属フレームを使わない膨らませて使用するものを提案し、空気による膨張で展開する発想から発泡樹脂を使用した浴槽を発案した、空気で展開する浴槽よりも保温に優れている利点と空気で膨らませた浴槽よりも安心感を演出するのが目的である。

### 5. 完成図



### 6. 結論

立川にある自衛隊の広報基地で検証を行い、この作品に対しての意見として設営の方法に問題がある。化粧台、棚などに人が掴んだりした際壊れる可能性がある。浴槽を展開した後での収納方法に問題がある。配管等を化粧台の裏に回すにあたって、不祥事が起きた際に復旧に時間がかかる、など多くの問題点を指摘された。また良い点として布の棚等の持ち運びを考慮した器具には面白い案であると意見をいただいた。今回自分はこの卒業研究を通して材料や構造の知識の浅さ、下調べの少なさが自己の汚点である。

### 7. 参考文献

ウィキペディア：野外入浴セット2型  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/...>